

シナリオライター

詠野万知子

「三部作って、そのうち一部が本当に売れた。嬉しかった」

——物語を書き始めたきっかけは？

詠野「最初は同人でした。十三才で、初めてパソコンを買ってもらって、そのときハマっていたキングダムハーツの二次創作で、シークレットムービーの続きを考えてお話を書いてみて。そういうのをWEBサイトで発表するようになり、創作仲間が増えてきて、どんどん楽しくなっていた感じです」

——オリジナルを書き始めたのは？

詠野「十四才でラノベにハマって、『自分でも書いてみたい』って。それで同人誌を作って、地元の小さなイベントに参加してみたいです。コピー誌を三部作って、そのうち一部が本当に——友達でもなんでもない、一般参加のお客さんに売れて。嬉しくて、それで本腰が入りました」

——スイッチが入ってからデビューまでは？

詠野「ニコ動を見てて、Priricoさんのファンになったんです。そしたら知人が、『紹介できるよ』って紹介してくれて、Priricoさんのライブの物販のお手伝いとかをするようになりました。それで、Priricoさん主催のポイスドラマCDの脚本を書かせてもらったりもして、お話を書くことをお仕事にしたいと本格的に思い始めて——ライブでお会いする業界関係者さんに、『シナリオを書きたいんです』って感じに売り込みを始めました」

——持ち込みじゃなく、売り込み？

詠野「何人かの方に、そういうお話をして。そしたら、あるライターさんがテスト課題をくれたんです。お題と、分量の指示に従ってお話を書くっていう。その課題をこなせたことがめぐって、エロゲデビューにつながりました」

——デビュー前にエロゲをプレイしていましたか？

詠野「はい。一番最初はグリーングリーンでした。桑島由一先生のファンなので、『桑島先生がゲームのシナリオをやってるらしい』っていう情報をゲットして。一番好きになったエロゲは、『赫炎のインガノック』です」

——steamパンクが大好き？

詠野「ですね。ラノベの『キーリ』も好きです。だから、『ものべの』で、田上俊介先生が背景を担当されてるご縁にびっくりしました」

——では、「一番エロい」と思ったエロゲは？

詠野「……ここは慎重に考えたい。少し考えさせてください……(沈黙)……
……エロゲでだ……一番を決めるのは難しいです。エロゲ以外だと……
希有馬屋さんの同人誌とか、モチ先生のエロマンガがエロいと思います」

——モチ先生がスラッと出てくるとは！

詠野「もともと、ロリコンなんです。女の子のかわいさが好きで。ペンネームも、町田ひらく先生の『黄泉のマチ』にちなんでつけさせていただきました。デビュー作が、ツルベタの女の子たくさんのお話だったので、気合を入れられるためというか」

——では、好きな作家さんは、女の子を書くのがかわいい方？

詠野「も、あります。mebaeさんの絵、大好きです。曲線というか、柔らかみをすごく感じて。自分でも、女の子の柔らかみは特に表現にしたい部分だと思っています。書かれてる内容に共感できる」という点では、榎戸洋司先生の作品が大好きです」

——お話を書いていて、楽しい部分と苦しい部分を教えてください。

詠野「楽しいのは、キャラクターがちゃんと会話をしてくれた、って感じる瞬間です。物語が面白くなってくれた——って思えたときとか。」